

公の施設の指定管理者における業務状況評価

平成25年1月28日

施設名	高知県立坂本龍馬記念館	所管課	文化・国際課
-----	-------------	-----	--------

1 施設の概要

指定管理者名	公益財団法人高知県文化財団	指定期間	平成21年 4月 1日 ~ 平成26年 3月31日
施設所在地	高知市浦戸城山830番地		
事業内容	坂本龍馬を顕彰する施設として、坂本龍馬に関する資料の収集、保管及び展示を行う。		
施設内容	<建物>延べ床面積:1,841.62㎡ SRC造 一部鉄骨地上2階地下2階 <主要施設> 常設展示室、企画展示室、図書・ビデオコーナー、ミュージアムショップ、談話室など <開館時間>午前9時～午後5時 <休館日> 12月27日～1月1日 <主な料金> 入館料 大人(18才以上)500円 ※高校生以下、高知県長寿手帳(65歳以上)、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳、被爆者健康手帳を所持する者と介護又は介助者1名、高知市長寿手帳を所持する者は無料		
職員体制	特別職非常勤: 1人 常勤職員: 4人 契約職員: 11人 合計: 16人		

※職員数は平成23年4月1日現在

2 収支の状況

単位:千円

		平成22年度(決算)	平成23年度(決算)	平成24年度(予算)
収入	県支出金	29,778	37,102	42,104
	事業収入	173,900	89,812	59,740
	その他	9,340	27,787	5,825
	収入計	213,018	154,701	107,669
支出	事業費	59,515	46,086	20,317
	管理運営費	112,533	86,162	86,597
	(うち人件費)	(53,113)	(53,093)	(54,322)
	その他	1,470	27,183	755
	支出計	173,518	159,431	107,669
収支差額 (a)-(b)		39,500	-4,730	0

3 利用状況

	平成22年度(実績)	平成23年度(実績)	前年度比
年間利用者数(単位:人)	442,423 人	228,951 人	-213,472 人
	<利用実績> 平成23年度の入館者数は、平成22年度(龍馬ブームにより開館以来最高442,423人の入場者数)には及ばないが、平年(過去10年平均125,512人:H11~H20)を大きく上回る228,951人で推移した。 開館20年を節目とした事業展開により利用者数の確保に努めている。		

4 県の要求水準に対する評価

要求水準1	評価	状況説明
「龍馬への入口」から一歩進んだ「龍馬の中核施設」へ 龍馬と関連分野に関する調査研究を進め、その成果である専門性の裏付けのもとに、龍馬に関する新しい発見が常にできる展示を行う 龍馬に関する専門施設として、「龍馬のことなら何でも分かる」との評価を定着させる 龍馬に関する情報を全国に発信する 教育普及活動を充実し、県民、特に次世代を担う子どもたちに龍馬について正しく理解してもらう	A	・平成23年度は、開館20周年にあたり、4本の企画展はすべて20周年特別展示と位置付けた。所蔵品展では、この20年間に収集した資料の中から選りすぐりの資料を展示。 ○開館20周年特別企画 「坂本龍馬記念館所蔵品展 リョウマハ生キテイル」展 「龍馬と土佐西南部の勤王志士」展(土佐勤王党結成150年記念特別企画) 「風になった龍馬」展Vol.3ー時代は未来へー 「選りすぐり 北川家寄贈資料」展 ・県内外からの様々な問い合わせ、照会に対して、迅速な対応ができる体制をとれた。また、要望に応じた解説の仕方などの工夫をすることでギャラリートークを充実させた。 ・広報誌を年4回以上発行し、ホームページと併せて情報提供が進んできた。また、リストリームなどを通じて、ネット社会への情報公開・提供に努めた。 ・龍馬伝以降、校外学習活動として来館する学校が増え、積極的に受け入れを行った。また、学校現場での龍馬学習への意識を高めた。

要求水準2	評価	状況説明
龍馬を求める人々の思いに応える	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>開館20周年記念事業として、入口前に設置したシェイクハンド龍馬像は大変素晴らしい。</li> <li>シェイクハンド像のアイデアは良いが、龍馬研究の聖地としてもっと龍馬を打ち出し、価値の高い資料をさらに所蔵するなど中身の充実に努めてほしい。</li> <li>来館者が龍馬に宛てて手紙を書く「拝啓龍馬殿」への声は、年4回発行される機関誌『飛騰』に一部掲載し、平成23年度には「拝啓龍馬殿」をまとめた本(第2弾)「龍馬さんへのラブレター」を発行した。また、館に対する不満や満足の声が現れているアンケート結果を真摯に受け止め、努力している。来館者の思いをくみ上げる取り組みを継続して行っている。</li> <li>地元の土産物店や桂浜周辺の民間企業と連携して、「桂浜龍馬プロジェクトぜよ！」を立ち上げ、連携を強化した。「桂浜龍馬プロジェクトぜよ！」では、平成24年度によさこいチームを結成することになり、平成23年度後半からよさこいの準備などで交流を深めている。よさこいを通じて、団結を図ると共に桂浜全体を盛り上げている。</li> </ul>
龍馬の生きた時代と龍馬の熱い生き様に触れ、来館者に勇気や元気を与える記念館とする		
龍馬の生き方に心寄せる人々が、人生の節目節目に訪れたいと思える記念館とする		
「龍馬像」「龍馬の見た海」「坂本龍馬記念館」という舞台装置を最大限生かして、記念館及び桂浜の魅力を高める		
上記の要求水準以外の取組		

要求水準3	評価	状況説明
観光地にある立地条件を生かし、来館者の増加に努める	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>開館20周年を迎え、大型ガイドスクリーン、幕末ポンピングフロアなど、これまでの“読む”展示から“体験”展示へのアプローチを本格的に開始し、特に館の2階フロアは子供目線を大事にしたビジュアル化に力を入れている。また、平成23年11月、龍馬記念館の玄関前に設置した「シェイクハンド龍馬像」が記念館をアピールする目玉となっている。</li> <li>都道府県別出口調査やアンケートを行ったり、投函箱「拝啓龍馬殿」を設置し、入館者の動向、要望、クレームなどを正確かつ多角的に把握し、入館者の増加戦略やニーズへの対応に生かし、企画展や館内設備などの要望に応えた。</li> <li>10月にハワイ、ニューヨークでアメリカフォーラムを開催。アメリカでは、龍馬等に対する関心を持ち、またフォーラムへの賞賛が大きく、この成果が次の展開につながることを期待する。</li> </ul>
魅力ある記念館の運営を行うことで5年を通じて年間13万人以上の入館者を目指す		
県外から多くの観光客が来館するという特性を生かして、龍馬を通じた高知県のイメージアップに貢献する		
上記の要求水準以外の取組		

#### 5 効率的な運営、サービスの向上、施設・設備の管理

運営・サービス・管理	評価	状況説明
効率的な運営、サービスの向上、施設、設備の管理に関する評価	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○適正な管理運営の確保 法令及び財団法人高知県文化財団就業規程等諸規定の履行、高知県立坂本龍馬記念館の管理運営に関する基本協定等の履行厳守に努め、老朽化が進む中で、適正な指定管理業務を行った。</li> <li>○利用者サービスの維持向上 学芸員、職員の知識向上に努め、他施設と連携することで、問い合わせ・照会に対し迅速、正確な対応に努めた。 都道府県別出口調査、アンケート、投函箱「拝啓龍馬殿」の実施で、入館者の要望、クレームなどを正確かつ多角的に把握し、企画展や館内設備などの要望に応えた。</li> <li>○利用実績 平成22年度が龍馬ブームにより、開館以来最高の44万人を超える入館者数を記録した。平成23年度は、例年を大きく上回る228,951人と余韻の中にある。龍馬ファンのリピーター底上げに努めることができた。</li> <li>○収支の状況 龍馬ブームが終了し、事業収入は平成22年度には及ばないが、開館20周年事業の展開などにより収入を確保し、H19～H21の平均事業収入(65,868千円)を上回る高い水準となっている。支出は、20周年事業の適正な執行と、経費削減努力により、効率的な管理運営を行った。</li> </ul>
適正な管理運営の確保		
利用者サービスの維持向上		
利用実績		
収支の状況		

	評価	状況説明
総合	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成23年度は、開館20周年にあたり、来館者にとって充実した、魅力ある展示を行うことができた。</li> <li>利用者サービスの維持向上に努めるとともに、龍馬に関する情報を全国に発信することができた。特に、平成23年度は初めての海外フォーラムを開催することで、日本のみならず、海外の現地の人たちにも龍馬の魅力を発信することができた。</li> <li>学校との連携により、出前授業の実施や校外学習活動の受入れを積極的に行うことで子どもたちが記念館を通じて幕末維新や土佐の歴史を学び、郷土に対する誇りと愛着を育むよう努めた。</li> <li>「龍馬伝」が日本中に龍馬ブームを巻き起こし、その余韻の中で、平成23年度は龍馬ファンの底上げに努力できた。それをさらにどう発展させていくか、期待する。</li> </ul>

#### 【評価の目安】

- A: 仕様書の内容や目標を上回る成果があり、優れた管理運営が行われたもの
- B: おおむね仕様書の内容どおりの成果があり、適正な管理が行われたもの
- C: 仕様書の内容や目標を下回る項目があり、さらなる工夫・努力が必要なもの
- D: 管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善を要するもの

この評価書は、外部の有識者等で構成する委員会を設置し、その意見をもとに評価を行ったものです。